

(仮称)“仙台E - ブロード・ウェイ”構想整備計画

～ 長期公演可能な劇場整備へ向けて～

東北 1,000 万人圏に、ヒトがヒトを呼ぶ都市文化装置を創ろう！

2004年12月
仙台商工会議所

(仮称)仙台 E-ブロード・ウェイ構想整備計画 目次

はじめに	1	2 新しい劇場の創造 ～ローコスト劇場の建設と運営～	-- 1 6
1 新しい劇場文化の創造のために	- 2	1. 建設候補地	16
序章	2	2. 施設構成	17
1. 「常に活動する劇場」を成立させるために	4	3. モデルプラン	18
2. 2003 年の国内ミュージカル公演概況	5	4. ローコスト劇場建設事業スキーム	22
3. 仙台圏の文化施策の現況と現実	9	5. 事業構造・運営組織	24
4. 仙台の劇場・ホールの実態	10	6. 事業体制・運営体制	25
5. 新劇場の課題	11	7. 新しい劇場で必要とされる運営の考え方	26
6. 劇場整備によりもたらされる各種効果	15	8. 年間運営イメージ	30
		9. 劇場使用料金について	31
		10. 劇場施設維持管理費の検討	32
		11. 劇場運営スキーム	33
		12. 損益予測とキャッシュフロー	34
		13. 劇場建設スケジュール	35
		14. 発展のイメージ	36
		<資料>	
		1. 興行者等に対する劇場整備に対するヒアリング	38
		2. ミュージカルなど行う劇場整備委員会 委員・ワーキンググループ名簿	41
		3. ミュージカルなどを行う劇場整備委員会活動経過	42
		4. 用語解説	46

はじめに

2001年『オペラ座の怪人』(観客動員数：約11万4千人)、2003年『キャッツ』(観客動員数：約14万9千人)と2度にわたり、宮城県民会館を会場に劇団四季の長期公演が宮城県、仙台市、仙台商工会議所、地元マスコミ等の主催により開催されました。

この公演が、多くの人々に感動をもたらしたことはいうまでもなく、広域的に県内・東北・首都圏を中心に全国各地からも集客し、飲食・物販・宿泊施設などの半券チケットサービスなどに代表される地域・企業と公演の連携や、市民自らの応援ホームページの開設、劇団四季によるミュージカルセミナー開催など、経済・文化面、さらにはシティセールス、雇用創出など、公演による波及効果は多岐にわたるものでありました。

しかし、仙台における劇場環境は、多目的ホールが複数存在するものの、舞台が狭隘であったり、客席と舞台が遠く十分な感動が伝わりにくかったり、公演を行なうための設備が不足して設備経費が必要以上にかかったり、劇場の長期使用が困難であるなどハード・ソフト両面に隘路がある状況といえます。

そこで、今般、当会議所において、県民・市民がミュージカルなどの優れた舞台を日常的に観劇でき、広域的な集客が期待できる「長期公演可能な劇場整備」へ向けて、宮城県、仙台市、仙台商工会議所、JR、マスコミや企業などの関係者が一体となり、実現可能な計画策定を行なうことを目的とした委員会を9月17日に設置し、精力的に検討を行って参りました。

今回の計画では、長期公演可能な劇場を整備する意義、整備候補地、整備手法、民間手法を用いた新たな運営システムの提案など、前回構想の内容をより深め、新たな劇場実現のために必要なものは何かということに主眼をおいた内容となっています。

最後になりますが、今回の計画策定にあたりご助言、ご協力を頂戴いたしました関係各方面の皆様に対しまして御礼を申し上げますとともに、本計画の一日も早い実現へ向け、関係各方面の皆様の今後より一層のご支援、ご協力を申し上げます巻頭のご挨拶とさせていただきます。

平成16年12月

仙台商工会議所
ミュージカルなどを行う劇場整備委員会
委員長 笹原 壯介(仙台商工会議所副会頭)

1. 新しい劇場文化の創造のために

序章

最近、「創造都市 (Creative City)」が注目を集めています。

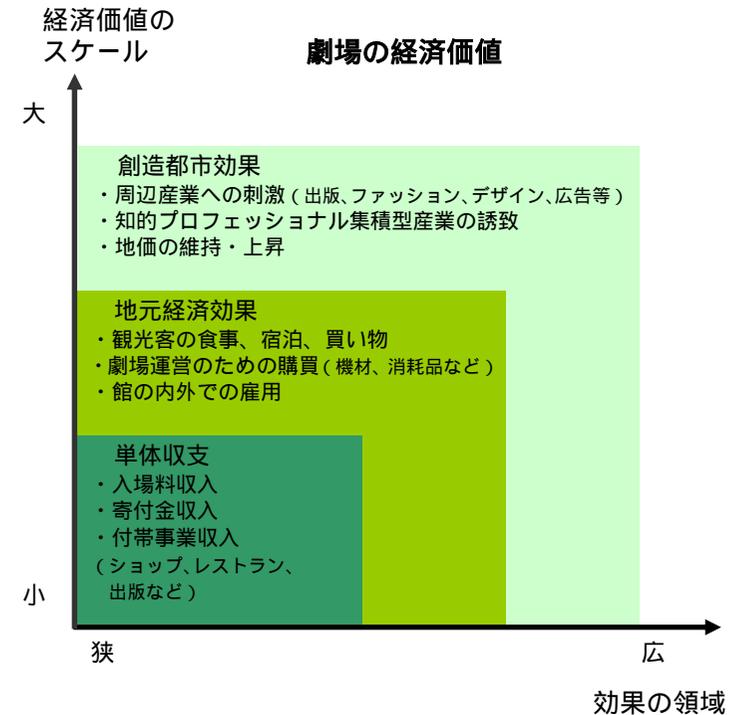
ノーベル賞を受賞したインド生まれの経済学者アルティア・センは、「ヒトの潜在能力の開拓が、持続的成長の鍵だ」と述べていますが、今や地域経済における「乗数効果」は、公共事業よりも芸術文化施設（劇場・ミュージアム）の方が大きいケースが見られ、このような“ヒトがヒトを呼ぶ”文化施設を持つことは、「創造都市」へと進化していく上で欠かせない要素となっています。

また、右肩上がりの経済成長が終焉すると、人々のパラダイムも大きく変化し、芸術文化の持つ創造性が都市の経済と社会に大きなインパクトをもたらすことが欧米で証明されています。

ダライ・ラマが「人生の目的はハピネス」と説くように、我が国でも、これまでのGNP追求から、GNH (Gross National Happiness) を希求する時代へと移行変わろうとしていると考えられるのです。

一方、仙台では、老舗がのれんを降ろしたり、大型店の郊外進出で求心力が低下するなど、他の都市同様、中心部の活力低下が指摘されています。当然のことながら、交通の要衝である都心部の活性化は、宮城県全体の発展にとって極めて重要な課題です。つまり、県外を含む広域からも吸引できる新たな魅力を持った都市装置を創造することで、仙台を起爆剤として県全体の活力を拡大していく視点が重要です。

そこで注目したいのが、劇団四季の実績に見られる、芸術性の高い作品をロングラン公演可能な「劇場」です。芸術性の高い作品は、県内はもとより、広域から良質なお客様を呼び、しかもその鑑賞のためにお洒落をしたり、食事をしたりと、幅広い消費を活性化させます。



1. 新しい劇場文化の創造のために

たとえば、2001年に行われた県内初のロングラン公演、劇団四季による“オペラ座の怪人”は、83日92ステージで11万4237人の観客動員を達成。さらに2003年12月～2004年5月に行われたミュージカル“キャッツ”公演は、139日146ステージにのぼり、14万9383人の記録を達成しました。

劇団四季のミュージカルが、たくさんのリピーターや広域からの誘客装置として、強力なソフトであることが証明されたのです。

また、この公演は単なる驚異的な集客を誇る舞台作品というだけでなく、この街に様々な社会現象を引き起こしたことも注目されます。

記念日のプレゼントにチケットが使われることから、独自に立ち上がったWebサイト、チケットの半券と飲食店との連携等々、舞台の感動とともに、確実に都心の活性化に一役かったのです。

もしも、このような劇場が仙台中心部で日常的に公演が可能となれば、その経済効果と文化振興などの波及効果は多岐に及び、仙台の魅力をトータルに高め、地価の向上や雇用創出、あるいはシティセールスなど、多くのメリットをもたらすと考えられます。

現在、仙台には県民会館や市民会館など、多目的なホールが存在しますが、舞台が狭隘であったり、ロングラン公演の困難さ、客席と舞台が遠く感動が薄れるなど、良質な作品を公演するための最適な環境は整っていないのが現状です。そこで、芸術性に優れた作品をロングラン公演できる劇場を整備し、東北全域からの集客を実現し、仙台の活性化に寄与する構想整備計画を策定いたしました。

このプロジェクトは県内の中心、仙台駅周辺の東ゾーンを中心に考えています。また、この劇場を創ることで、多様な人々、クリエイティブな人々が自然に集まり、これまで以上に魅力的で活気ある都心部の形成に寄与することを願い、ニューヨークのブロードウェイにならい、また駅東ゾーンであることから、(仮称)「仙台E-ブロードウェイ構想」としています。

1．新しい劇場文化の創造のために

1．新しい劇場文化を成立させるために ～「常に活動する劇場」～

劇場が都市の一機能として認知されることは、そこが何らかの舞台作品が上演され続ける「常に活動する劇場」であることで初めて実現されるものです。

こうした劇場が生まれ、都市の中に存在することによって新たな劇場文化が形成され育まれていきます。劇場文化は都市に活気や賑わいを創出するばかりでなく、経済的な観点からも劇場を訪れる観客による直接的、あるいは間接的な消費活動をもたらします。さらには文化的な都市イメージによる更なる経済波及効果が顕在化することにより都市自体の価値を高めることが可能となります。

このような様々な都市活動の連鎖の中であってこそ、劇場文化は都市の一部となり人々とともに育っていきます。

このプロジェクトは多くの舞台芸術の中でも、比較的大きな客席規模でロングラン公演を可能にするソフトとして、芸術性ばかりでなく複合するジャンルの多様性やエンターテインメント性を包含するミュージカルを中心に計画を進めています。

これは、わが国のとりわけ地方中枢都市におけるロングラン公演を想定した場合、最も可能性のあるソフトがミュージカルであることに他ならないからです。

1. 新しい劇場文化の創造のために

(2) -1. 2003年の国内ミュージカル公演概況 その1

日本国内で最も精力的にミュージカルの上演活動を行っている団体は、仙台でも2度にわたるロングラン公演を成功させた劇団四季で、2003年の上演回数は全国で2660回(表2)、劇団四季の巡回公演を除く他の各上演団体等によるミュージカルの上演回数は主要都市だけで3,731公演にのぼります(表1)。

知名度の高い劇場だけをみても新作が年間100作品以上、また再演作品は約50作品上演されています。

これら以外にも児童劇団等による全国巡回公演が多く行われ、ミュージカルは国内の演劇界で主要な位置を占めるジャンルとして定着しつつあります。

表1 2003年国内主要都市ミュージカル上演回数(劇団四季の巡回公演を除く)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
東京	212	194	195	94	202	170	211	278	174	185	149	94	2,158
名古屋		33		40	10	2		16					101
京都								18					18
大阪	113	59	110	78	69	69	54	218	62	69	49	107	1,057
巡回	40	20	47	11	32	20	26	81	30	50	27	13	397
計	365	306	352	223	313	261	291	611	266	304	225	214	3,731

参考文献 社団法人 日本演劇協会監修発行「演劇年鑑2004」

(表1) 社団法人 日本演劇協会監修発行「演劇年鑑2004」掲載の表を一部抜粋

(表2) 「演劇年鑑2004」掲載の表を基に一部加工

(表2) 巡回公演については客席数を仮に1000とした。

表2 2003年劇団四季上演記録

上演作品名	会場	客席数	公演期間	公演回数	動員(最大)数
ライオンキング	四季劇場 春	1255	98/12/20~04/8/29	352/2068	441760
マンマ・ミーア	電通四季劇場 海	1216	12/1~04/8/31	386/630	469376
赤毛のアン	四季劇場 秋	907	11/19~03/1/5	4/44	3628
クレイジー・フォー・ユー	四季劇場 秋	907	1/11~5/31	132	119724
ミュージカル李香蘭	四季劇場 秋	907	6/15~7/27	40	36280
異国の丘	四季劇場 秋	907	8/9~10/10	52	47164
夢から醒めた夢	四季劇場 秋	907	10/25~12/28	61	55327
オンディーヌ	自由劇場	500	11/11~11/30	22	11000
ひかりごけ	自由劇場	500	12/9~12/23	15	7500
小計				1064	1191759
コンタクト	新名古屋ミュージカル劇場	990	11/29~03/1/31	32/64	31680
アンデルセン	新名古屋ミュージカル劇場	990	2/9~3/2	24	23760
ライオンキング	新名古屋ミュージカル劇場	990	6/8~04/9/30	224/504	221760
小計				280	277200
キャッツ	大阪MBS劇場	1100	01/3/11~03/1/13	13/688	14300
コンタクト	大阪MBS劇場	1100	2/15~4/27	71	78100
異国の丘	大阪MBS劇場	1100	5/7~7/6	58	63800
夢から醒めた夢	大阪MBS劇場	1100	7/19~9/20	61	67100
アイダ	大阪MBS劇場	1100	12/21~04/8/29	10/240	11000
小計				213	234300
オペラ座の怪人	京都劇場	861	02/1/1~03/3/2	56/408	48216
ハムレット	京都劇場	861	3/22~4/13	24	20664
美女と野獣	京都劇場	861	6/1~04/6/30	209/383	179949
小計				289	248829
ライオンキング	福岡シティ劇場	1144	01/4/17~03/3/23	70/700	80080
コンタクト	福岡シティ劇場		5/11~7/6	56	64064
オペラ座の怪人	福岡シティ劇場		8/10~04/3/28	136/214	155584
小計				262	299728
キャッツ	静岡市民文化会館	1968	4/29~7/9	78	153504
キャッツ	広島郵便貯金会館	1730	8/2~11/24	115	198950
キャッツ	宮城県民会館	1590	12/19~04/3/28	11/106	17490
小計				204	369944
「冒険者たち」ファミリー(自振含)	57都市	1000	1/7~3/31	57	57000
「青い鳥」NHK	2都市	1000	5/10~8/24	8	8000
ハムレット	34都市	1000	5/15~7/11	38	38000
「エルスの祈り」ニッセイ名作劇場	11都市	1000	8/28~11/25	126	126000
「青い鳥」ファミリー	24都市	1000	7/16~8/24	24	24000
「エルスの祈り」ファミリー	16都市	1000	8/28~11/25	16	16000
アンデルセン	51都市	1000	10/4~12/21	56	56000
「嵐の中の子どもたち」チャリティー	21都市	1000	11/18~12/19	21	21000
「嵐の中の子どもたち」ファミリー	2都市	1000	11/15~11/17	2	2000
小計				348	348000
総合計				2660	2969760

1. 新しい劇場文化の創造のために

(2)-2. 2003年の国内ミュージカル公演概況 その2

2003年劇団四季は創立50周年を記念し、ストレートプレイを中心に上演する「自由劇場」(500席)をオープンさせました。

これにより劇団四季の拠点劇場は8劇場目となり、各劇場でロングラン公演、及び全国巡回公演を行っています。国内のミュージカル上演団体の中でも公演数、公演会場数は群を抜いています(表2)。劇団四季の2003年1年間の公演数は2660回、観客動員数(想定条件による)は実に約300万人にも及んでいます。

また劇団四季として初めて東京以外の都市からスタートする「アイーダ」(大阪MBS劇場、12月～)が上演され、話題を呼びました。

その他の団体についてみると、先ず東宝制作の「レ・ミゼラブル」の再演(帝国劇場、7～8月)が人気を博し、1987年の日本初演以来の累計上演数は実に2000回近くに及んでいます。

宝塚歌劇団は2004年の創立90周年を控えた年であり、若手主演のパウホール公演等にも力を入れています。

東京発の演目が大半を占める中、地方発の公演として特筆されるものが二つありました。

一つは劇団ひまわりが新潟市の財団と共同制作した「レ・ミゼラブル」。もう一つは田沢湖畔に本拠地のあるわらび座が上演した「つばめ」です。

国内で精力的に活動しているミュージカル上演団体の例

劇団四季	1953年設立。設立当初はミュージカルの公演は行わなかったが、70年代からミュージカルの上演を精力的に行い、その後、専用劇場を建設し無期限ロングラン公演を行うなどして注目を集める。俳優、スタッフ等総勢1000名に及ぶ構成員を抱える国内最大規模の劇団。
宝塚歌劇団	1914年初公演。1919年宝塚少女歌劇団を組織し女性だけによる歌劇を上演。創生期から独自の劇場を建設し公演を行う。現在は本拠地である兵庫県宝塚市と東京に専用劇場を持ち、花・月・雪・星・宙組、の5つの組による上演が行われている。
わらび座	1951年設立。1953年以来秋田県田沢湖町を本拠として活動。全国各地の民俗芸能を取材し舞台化したミュージカル等を上演。年間上演回数1000以上。

1. 新しい劇場文化の創造のために

表3 2003年ミュージカル演劇系列劇場公演記録(ミュージカ以外の公演含む)

劇場	演目と公演日									
青山劇場 (1200席)	サクラ大戦 帝国歌劇団花組 2003新春歌謡 ショー(1/3~7)	林英哲meets山下 洋輔公演(2/15)	ハルコロデュース 公演「オケビ!」 (3/11~4/20)	丸美屋食品 ミュージカル公演 「アニー」 (4/26~5/11)	ハワイヤ鈴木&西 島千博with BugsUnderGroove (5/16~18)	トット・トラスト・オー ル-30、ホリロ×ナイ ロ100 (5/24~6/8)	ル・シャルム(6/12)	民謡の底力 (6/14~15)	The CONVOY Show vol.23 「雲のゆくえ」 (6/18~30)	少年隊 PLAYZONE2003 「Vacation」 (7/14~8/6)
	8回/5日間	1回/1日間	51回/41日間	25回/21日間	4回/3日間	20回/16日間	1回/1日間	2回/2日間	12回/13日間	32回/24日間
	4Dアート「アニマ」 (8/9~10)	フコク生命ミュージカル 公演「シンデレラストー リー」 (8/15~31)	OINARI〜浅草ギン コ物語 (9/22~27)	The Musical 「BLOOD BROTHERS」 (10/4~19)	つかこうへいヴァブル 2003「幕末純情 伝」飛龍伝 (11/14~12/7)	モンタルオ/エル ヴュ公演「バラディ (楽園)」(12/19)	アニークリスマスコ ンサート(12/20~ 21)			
2回/2日間	20回/17日間	8回/6日間	20回/16日間	26回/22日間	1回/1日間	4回/2日間				
赤坂 ACTシアター (1236席)	宝塚歌劇宙組公演 「聖なる星の奇蹟」 (1/4~10)	ダンスミュージカル 「BRYANT PARK MOVEMENT」 (1/13~22)	音楽活劇 「レディ・ソロ」 (2/14~23)	ブロードウェイ ミュージカル「ノイ ズ&ファンク」 (2/27~3/23)	宝塚歌劇花組公演 「不滅の棘」(3/28 ~4/3)	ローラン・プティ グラン・ガラ (4/10~12)	coba'tour2003 運 命のレシビ」(4/16)	筋肉ミュージカル 2003(4/26~5/11)	ブロードウェイ ミュージカル 「CHICAGO」 (5/29~6/22)	赤坂ACTシア ターファイナル 公演「ピーシャ・ ピーシャ」(7/16)
	11回/7日間	11回/10日間	15回/10日間	30回/25日間	11回/7日間	4回/3日間	1回/1日間	16日間	32回/25日間	90回/62日間
日生劇場 (1330席)	ミュージカル 「ジキル&ハイド」 (1/5~31)	2003年2月東宝日 生特別公演「恐怖 時代」(2/5~28)	日生劇場3月公演 「THE CONVOY SHOW vol.22」 (3/5~28)	日生劇場4月公演 「都はるみロングコ ンサート」(4/5~ 29)	宝塚歌劇星組 5 月日生劇場公演 「雨に唄えば」(5/6 ~27)	発足40年2003年度 ニッセイ名作劇場公 演「エルスの祈り」 (6/2~7/10)	茂山千五郎家のこ どものためのおもし ろ狂言(7/21~22)	佐藤しのぶと歌う 「みんなでいっしょ にコンサート」(7/26~ 27)	シリーズおんが く探検隊「タイム マシンで探検 しよう」(8/1~3)	ミュージカル 「みどりのゆび」 (8/22~24)
	34回/27日間	37回/24日間	21日間/24日間	24回/25日間	33回/22日間	39日間	3回/2日間	2回/2日間	3回/3日間	4回/3日間
	山本直純先生を偲 んで「歌をたくさん たくさんありがとう う!!!」(8/28)	日生劇場9月公演 「Hiroshi Itsuki LIVE CONCERT」 (9/3~23)	日生劇場10月公演 「若き日のゴッホ」 (10/1~13)	日生劇場40周年記 念10月公演「越路 吹雪物語」(10/17 ~26)	日生劇場40周年記 念「日生劇場オヘア 教室一般公演」 (11/13)	日生劇場40周年記 念「ニッセイオヘア2003 東京二期会オヘア劇 場」(11/22~24)	日生劇場12月公演 「リチャード三世」 (12/5~28)			
1回/1日間	33回/21日間	17回/13日間	12回/10日間	1回/1日間	3回/3日間	28回/24日間				
帝国劇場 (1917席)	ミュージカル「SHOCK is Real Shock」 (1/8~2/25)	3月帝国劇場特別 公演 ミュージカル「ミ &マイガール」(3/2~ 30)	4月特別公演 「春は爛漫」 (4/3~30)	5月帝国劇場特別 公演 ミュージカル 「風と共に去りぬ」 (5/5~31)	6月帝国劇場特別 公演 喜劇「口八 丁手八丁!」(6/4 ~28)	東宝株式会社制作 キャロル・マキントッシュ プロダクション公演「レ ミゼラブル」(7/6~ 9/28)	10・11月帝国劇場 特別公演 ミュージカ ル「十二夜」(10/5~ 11/24)	12月帝国劇場特別 公演 ミュージカル 「THE WITCHES of EASTWICK」(12/2 ~29)		
	76回/49日間	34回/29日間	37回/28日間	39回/27日間	39回/23日間	126回/85日間	76回/51日間	40回/28日間		
宝塚大劇場 (2527席)	宝塚歌劇雪組公演 (1/1~2/4)	宝塚歌劇宙組公演 (2/21~3/31)	宝塚歌劇月組公演 (4/4~5/19)	宝塚歌劇花組公演 (5/23~7/7)	宝塚歌劇星組公演 (7/11~8/18)	宝塚歌劇雪組公演 (8/22~9/29)	宝塚歌劇宙組公演 (10/3~11/17)	宝塚歌劇月組公演 (11/21~12/26)		
	50回/35日間	55回/38日間	64回/46日間	61回/46日間	55回/39日間	55回/40日間	64回/46日間	51回/36日間		
東京宝塚劇場 (2069席)	宝塚歌劇花組公演 (1/2~2/9)	宝塚歌劇星組公演 (2/14~3/23)	宝塚歌劇雪組公演 (3/28~5/4)	宝塚歌劇宙組公演 (5/9~6/22)	宝塚歌劇月組公演 (6/27~8/3)	宝塚歌劇花組公演 (8/8~9/14)	宝塚歌劇星組公演 (9/19~11/3)	宝塚歌劇宙組公演 (11/8~12/23)		
	57回/39日間	54回/38日間	55回/38日間	65回/45日間	55回/38日間	55回/38日間	67回/46日間	66回/46日間		
宝塚 バウホール (500席)	宝塚バウホール25 周年記念5組連作 公演 宙組公演 (1/2~10)	宝塚バウホール25 周年記念5組連作 公演 星組公演 (1/18~24)	宝塚バウホール25 周年記念5組連作 公演 月組公演 (1/28~2/4)	宝塚バウホール25 周年記念5組連作 公演 雪組公演 (3/1~9)	宝塚バウホール25 周年記念5組連作 公演 花組公演 (3/15~23)	宝塚歌劇雪組公演 (6/14~23)	宝塚歌劇宙組公演 (8/2~11)	宝塚歌劇月組公演 (9/6~15)	宝塚歌劇花組公 演(10/11~20)	宝塚歌劇星組公 演(12/7~16)
	13回/9日間	11回/7日間	12回/8日間	13回/9日間	13回/9日間	15回/10日間	15回/10日間	15回/10日間	15回/10日間	15回/10日間

ミュージカル公演

公演1ヶ月以上

公演2週間以上

社団法人 日本演劇協会監修発行「演劇年鑑2004」全国主要劇場上演記録を基に作成

1. 新しい劇場文化の創造のために

(2.) -3. 2003年の国内ミュージカル公演概況 その3

国内の主要ミュージカル系列劇場の2003年公演状況は表3のようになっています。青山劇場はミュージカル以外の公演も比較的多くありますが、ミュージカルについて見る限り、その公演期間は概ね10日～1ヶ月になっています。これは赤坂ACTシアター(2003年閉館)も同様の傾向です。

日生劇場、帝国劇場における自主企画のミュージカルについては、1作品につき1ヶ月程度の公演期間のものが最も多く、時には1ヶ月半、2ヶ月、3ヶ月の公演も行われています。

ミュージカルを上演する代表的な国内団体である劇団四季と宝塚歌劇団の1演目あたりの公演日数はそのほとんどが1ヶ月以上になっています。

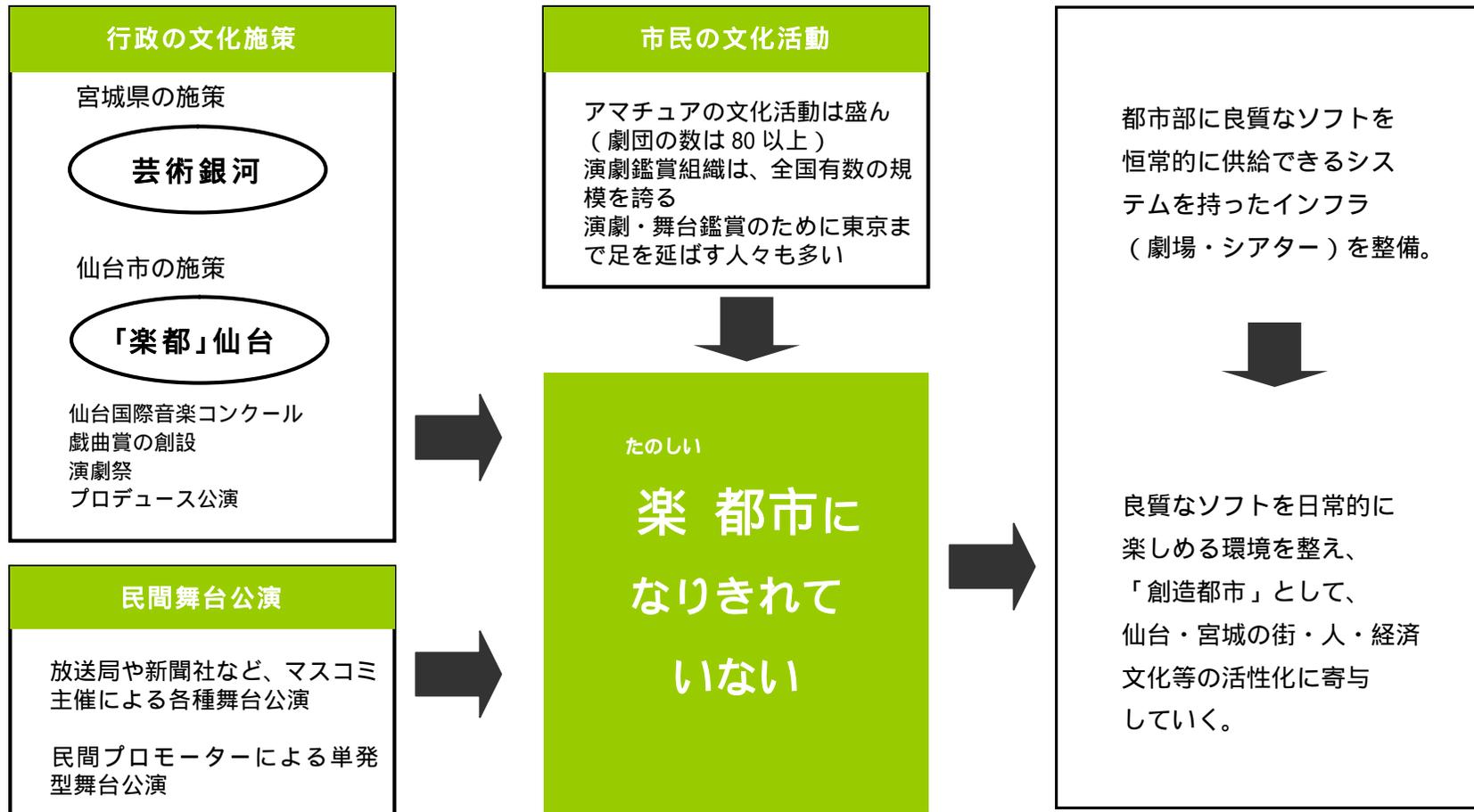
その他、ジャニーズ事務所のタレントが出演するミュージカルや、海外ミュージカルの来日公演、「レ・ミゼラブル」のような定番の演目が1ヶ月～3ヶ月程度のロングラン公演を行っています。

以上のように、ミュージカルの公演は他の舞台芸術ジャンルに比べ、比較的長期間に及ぶ上演を行うことが多く、ロングランに絶えうる有効なソフトであることが分かります。

しかしながら、わが国の公立文化施設では劇場施設の運営主体と上演作品の創造主体が分離しており、劇場は作品を創造をせずに上演のみを行う消費型劇場が大多数を占め、かつ上演にあたって連続使用期間の上限設定などにより長期公演を受け入れることができないのが実情です。このような特性から、首都圏では長期間の使用が難しい公共ホールではなく民間の劇場での公演が比較的多く、(表3)にあげた各劇場では主にミュージカルを核とした事業構成を行っています。しかしながら、首都圏以外ではこのような長期公演の使用形態に適した仕様と運営方法を備えた劇場の数が少ないため、劇団四季はミュージカルの長期公演を行うために各地に専用劇場を建設しています。

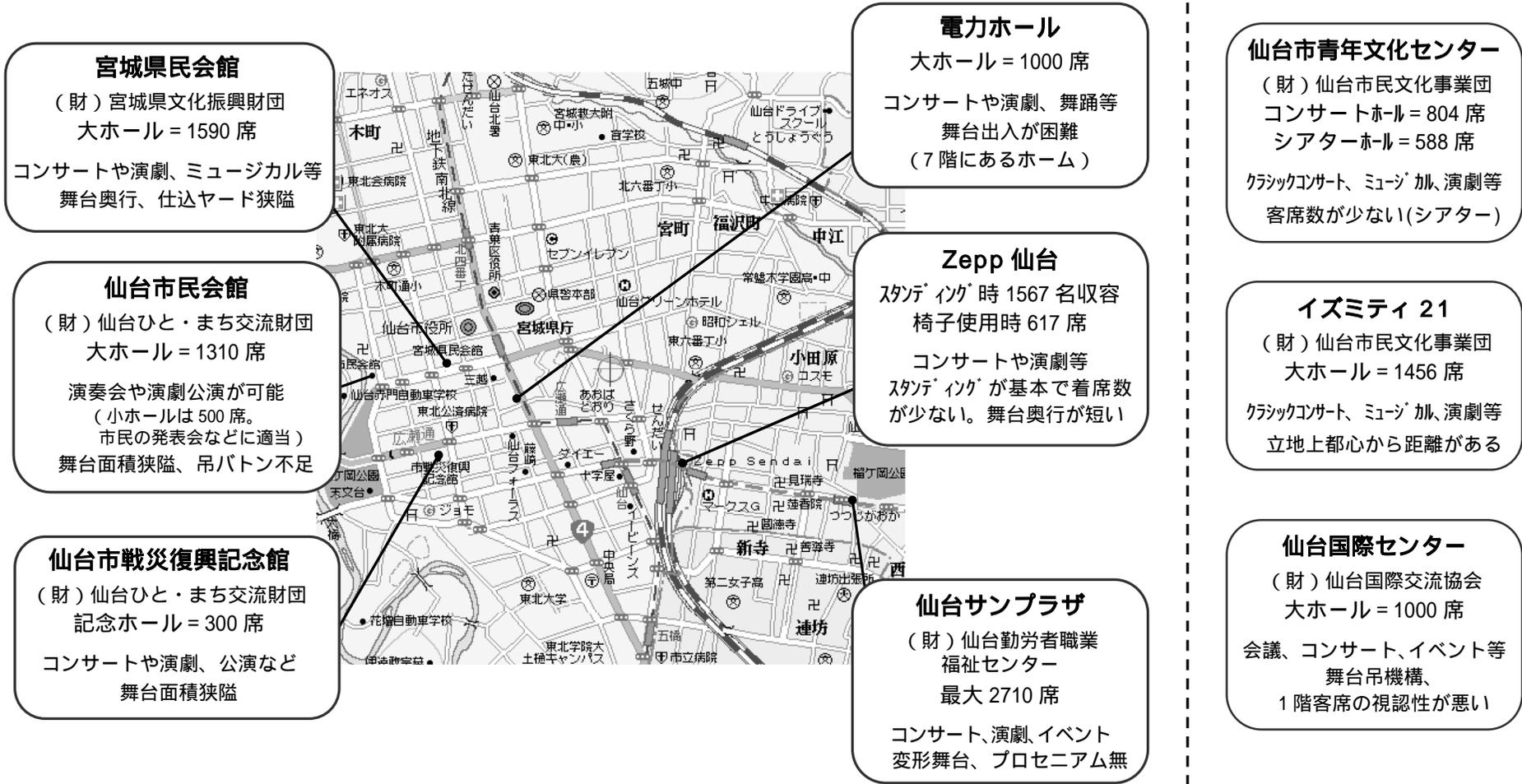
仙台にも各種の劇場施設がありますが、前述と同様の運営上の問題として、長期連続使用の認可手続の煩雑さ(文化会館が市民文化活動の発表の場と芸術文化鑑賞の場を兼ねることの困難)、規則で定められた一律の使用申し込み方法、条例に定められた会館時間による拘束、劇場側による使用者選定が困難、などの多くの制約があり、ハード面の問題としても、固定化され変更が困難な空間、舞台と客席との緊密度の低さ、等の理由により都市文化の成熟に大きな役割を果たすことが期待されるミュージカルの長期公演が困難である、という現状があります。

3. 仙台圏の文化施策の現況と現実



1. 新しい劇場文化の創造のために

4. 仙台の劇場・ホールの実態



凡例 本格的ロングラン舞台公演実施上の問題点

1. 新しい劇場文化の創造のために

5. 新劇場の課題

(1) より大きな感動を得られる劇場の整備～舞台と観客席の緊密度、視認性と音響の良い建物～

わが国の公立文化施設は、一つのホールでクラシックコンサート、演劇、歌舞伎、講演会など、様々な催事に対応する多目的ホールとして整備される例がほとんどでしたが、演目と完全に合致した空間を作り出すことに限界があることから、クラシック音楽や演劇等の専用劇場（もしくは専用ホール）が建設されるようになりました。

どのような興行でも公演可能な多目的ホールは、元来、クラシックコンサートなどにも対応できるよう音響効果を考慮し、空間を広く高く取っています。しかし同じ施設で演劇公演を行うと、台詞は通りにくく、役者の表情や演技も分かりにくいという不満が残ります。

また、舞台の間口が広く、その分客席も横に広がる構造では多くの席数を確保することが出来ますが、結果として反対側の舞台袖との距離は遠くなり、前方の客席ですら舞台が遠く見えにくく、全体としても演技が拡散し、作品の印象が希薄なものになってしまいます。

地方の中小都市の場合、一つのホール施設で多ジャンルの催事に対応せざるを得ない状況がありますが、大都市圏で複数の劇場・ホールが設置される環境では、施設間で機能分担し、それぞれの演目に高度に対応した専用劇場やホールを整備することが可能です。

今回の劇場整備に際しては、舞台間口は狭く、高さがある舞台芸術上演専用劇場を求めます。この場合間口幅が狭い分、客席数は減りますが、上演作品により適した上演空間でしか得られない演出効果を重視することにより、結果としてトータルの集客数は増加すると考えます。

舞台と客席の距離も最大で約20m程度以下に抑え、観客が舞台芸術作品の生のエネルギーを体感できる、舞台と客席が離れすぎない空間が必要です。客席数はあえて1200席程度に抑え、「舞台と客席に一体感のある濃密な空間」とすることで観客がより多くの感動を得られる劇場を実現します。

(2) 長期公演に対応した柔軟な運営システムの構築

「完成度の高い良質の作品をより多くの方に観てもらいたい。」制作者なら誰もが考えることです。しかし、ほとんどの制作者は資金面での制約や舞台仕込み等の時間的な余裕がないなどの問題から一定の妥協をせざるを得ないというのが現状ではないでしょうか。

結果、中途半端な作品を観た観客は物足りなさを感じ、もう二度と劇場に足を運ばなくなる、このような悪循環がしばしば繰り返されています。

また、仮に質の高い作品を上演しても、ほとんどの場合、公演期間が短く評判になる頃には終わってしまうため、限られた観客しかその感動を体感することができず、広がりもあまり期待できません。

制作者サイドからみても、短期公演では事前宣伝、衣装、舞台装置等の経費を賄うことは困難であり、次の作品制作にも影響を及ぼすこととなります。

良質の作品を提供すれば、観客がそれに応え、当地仙台・宮城でも半年にわたる長期公演が可能であるということは、県民会館の2度の実績により既に実証済みであり、長期公演が観客、制作側、双方の欲求を満たす鍵ともいえます。

今後、多くの方に質の高い作品を観ていただくためには、長期公演での利用を誘導する劇場使用基準を設けることや現状の先着・抽選申し込みではなく、長期公演を優先することが可能な運営システムの整備が必要といえます。

1. 新しい劇場文化の創造のために

(3) 夜間公演などにも対応できる自由度の高さ

会社帰りのサラリーマンやOLでも公演に間に合う夜間の公演に対応するなど劇場使用時間等の自由度の高さを確保する必要があります。

これには、都市の交通機関の運行時間や周辺の飲食店舗など劇場機能を補完する環境との兼ね合いも無視できませんが、劇場サイドとして極力柔軟な運用が可能にできるようなルールづくりが求められます。

(4) 無駄を省いたロコトでの劇場建設・運営

大量動員が見込めなくても収支が見込める劇場使用料の実現が必要です。単層、独立施設での整備など、初期費用、運営費用の圧縮努力が必要です。

また、舞台特殊設備においても劇場サイドで用意する固定設備と公演サイドが用意する設備との関係性などについてもこれまでの公立文化施設のあり方の概念を超越して考えていくことが必要になります。

(5) 制作サイドから見た課題～多様な舞台作品に対応できる柔軟性のある舞台装置・設備～

近年の話題を呼ぶミュージカル作品の一つの傾向として、大掛かりな舞台装置等を用いた演出があります。ロングラン公演のための劇場を計画する場合には、そうした大掛かりな演出にも対応出来ることが今後要求されることが予測されます。

2003年のミュージカル公演の中で、こうした傾向を顕著に示した事例が青山劇場「少年隊 PLAYZONE2003」、また劇団四季による「キャッツ」の3都市巡回公演（静岡、広島、宮城）です（表2、3）。

この両公演は、いずれも既存の劇場施設に建築的な改修を施したうえで舞台装置、照明器具等の仕込みを行っており、客席空間上部にまでトラスを仮設している点においても共通する事例になります。

以下本項では、特に劇団四季「キャッツ」の3都市巡回公演を事例として、ミュージカル専用劇場の構想において課題となる項目を整理します。

(5)-1 劇団四季の劇場に対する理念

劇団四季の劇場に対する理念は「キャッツ」の仮設テント劇場（1983年）から始まります。公演を行うにあたり演目に必要な劇場を建設するという考えのもと、この仮設テント劇場が建設されました。

それ以降、プロセニウム型の仮設劇場を経て常設の専用劇場の建設に至りますが、ここでも劇場に対する思想は一貫しています。すなわち劇場内には固定された舞台機構や照明、スピーカ等は存在せず、演目に合わせた機能をその都度入れ替えるとの思想に基づき、全国に常設の専用劇場を建設しているのです。これは「劇場の在り方」を考えていくうえで、「空間演出」を本位とする劇場構想策定の重要な手掛かりといえるでしょう。

1. 新しい劇場文化の創造のために

(5) - 2 既存施設を使用した劇団四季「キャッツ」公演の事例

劇団四季は前述のように専用劇場を建設し上演活動を行うなかで、劇場内の設備等を演目に合わせてその都度配置する技術的ノウハウを蓄積しました。

近年では地方の公立劇場の建築空間と電源等の基幹設備のみを利用し、一般的には劇場に固定設備として設置されている舞台特殊設備を含めて、演出に利用する舞台装置や設備類を持ち込み、上演作品に完全に合致した設備システムとすることで質の高い公演を実現しています。

実際に2003年劇団四季が宮城県民会館、静岡市民文化会館、広島郵便貯金ホールで行った「キャッツ」公演に際しては、こうした四季のやり方に従来型の公立文化施設で対応するため、劇場側としても一部設備類等の撤去や位置変更を行いました。また上演側も全ての設備を持ち込むなど劇場側、上演側双方が決して少なくない負担を強いられています。劇団四季の「キャッツ」公演で使用された3既存施設では公演後の現状復帰を条件に次のような改修行為が行われました。

宮城県民会館等既存公立施設における劇団四季「キャッツ」公演(2003年)に際しての上演サイド、劇場サイドの対応例

上演サイドの対応

- 1) 舞台
 - ・トラスを組み、仮設スノコ、仮設キャットウォークを設置
 - ・仮設の回り舞台を設置
 - ・舞台を張り出しとする
 - ・二階舞台を設置
- 2) 客席
 - ・客席上部にトラス、仮設キャットウォークを吊り込む
 - ・パネルで仮設壁を設置
 - ・一階、二階席共に舞台からの脇花道を設置
 - ・舞台から連続させて電飾を設置

劇場サイドの対応

- 1) 舞台
 - ・音響反射板の吊り位置変更、及び吊り高さリミット変更
 - ・ライトタワーの吊り位置変更、及び吊り高さリミット変更
 - ・トラス設置部の幕類撤去
 - ・ボーダーライト、サスペンションライトの吊り高さ変更
- 2) 客席
 - ・トラス、足場、客席内音響調整卓、調光卓設置場所の客席撤去
 - ・トラス、足場設置の為に床下躯体を鉄骨でサポート
 - ・トラス、足場設置の為に車椅子席の手摺を切断

1. 新しい劇場文化の創造のために

(5) - 3 ミュージカル等の公演に適した劇場空間

前述のように主にミュージカル等の演出性の高い舞台芸術を上演するための劇場では、従来の公共ホールの考え方と異なる下記のような空間が求められます。このような空間では通常の公共ホールのように、1日2日単位で利用者が入れ替わる利用形態は困難ですが、市民の発表の場としての公共ホールの在り方とは一線を画し、あらゆる市民に開かれ、より広域性を持った舞台芸術作品を、よりその上演に適した状態で観客に提供し、人々の劇場体験をより深く意義深いものとするための劇場の存在は、文化的な都市の成熟のためには非常に重要です。

1. 演出に応じた空間設定のフレキシビリティ

1) アクティングエリアにおける考え方

- ・プロセニウム周辺の舞台及び客席前部エリアは演出により舞台形状が異なることが多く、舞台形状に応じて座席配列なども対応できるようにするなどの柔軟性が求められる。
- ・上演作品固有の演出との関連性の高いせりや回り舞台などは設置せず、演出の要望により柔軟に舞台空間を構築できる建築空間であることが望ましい。

2) 客席・ロビーエリアにおける考え方

- ・作品によっては、舞台だけでなく客席、ロビー空間全体を上演作品に合わせて装飾する場合もあり、これらに対応すべく、客席やロビー空間への仮設にも対応できることが望まれる。

2. 演出を実現する機器、設備への対応のフレキシビリティ

1) 積載荷重や電源容量など劇場機能としてのインフラの充実

- ・ロングランミュージカルの上演においては、前述のように建築空間そのものを上演作品に合わせて飾ることが想定されるため、舞台装置、舞台照明、舞台音響といった設備類も劇場固定のものを使用するより、演出空間に合わせて設置されることとなる。
- ・従って、建築側ではこれらに柔軟に対応できるよう、床の積載荷重や電源容量を十分に確保するなどの基本的なキャパシティを確保することが求められる。

2) 仮設への建築的、設備的な対応のフレキシビリティ

- ・上演作品に合わせて設備や機器を設置するため、極力任意の場所でも可能であるような配慮が求められる。
- ・また、舞台設備でも機器の用途を固定化、専用化するのではなく、要望に応じて位置、用途が変更できるようにする必要がある。

1. 新しい劇場文化の創造のために

6. 劇場整備によりもたらされる各種効果

(1) 都心のにぎわいと活性化

長期公演による集客の恒常化

劇団四季の実績では、『オペラ座の怪人』公演4か月間で約11万人。同『キャッツ』公演では、5か月間で約15万人の観客を動員。ミュージカル等の演劇への需要の高さが確認されたと同時に、今後は、長期公演により「観劇」消費行動の定着と恒常化が期待されます。

飲食やショッピングへの波及

「観劇」に付随する間接的消費行動として、服飾品や関連書籍などの観劇準備のための消費と、観劇前後の飲食やショッピングなどが挙げられ、特に県外や遠方からの来訪者には、大型の間接消費が期待できます。

県内外からの広域集客

『オペラ座の怪人』、『キャッツ』では、25%強が県外からの集客であり、交通・旅行への経済効果や、作品や俳優による情報発信に伴うシティセールスや観光面での効果が期待できます。

(2) 東北全体の文化レベルの底上げ、仙台・宮城の魅力度アップ

新しい社会現象やライフスタイルの派生

長期公演により、未体験の観客層を開拓すると同時に、同じ演目を何度も鑑賞する、劇場に足を運ぶという慣習（ライフスタイル）が定着し、県民市民をはじめ東北全域の文化活動の活性化につながります。

舞台関係者との交流やインセンティブ

数ヶ月にわたり関係者や俳優が滞在し、県民市民との交流が促進し、コアなファンの創出やメディア取材等によるメジャー化も期待できます。

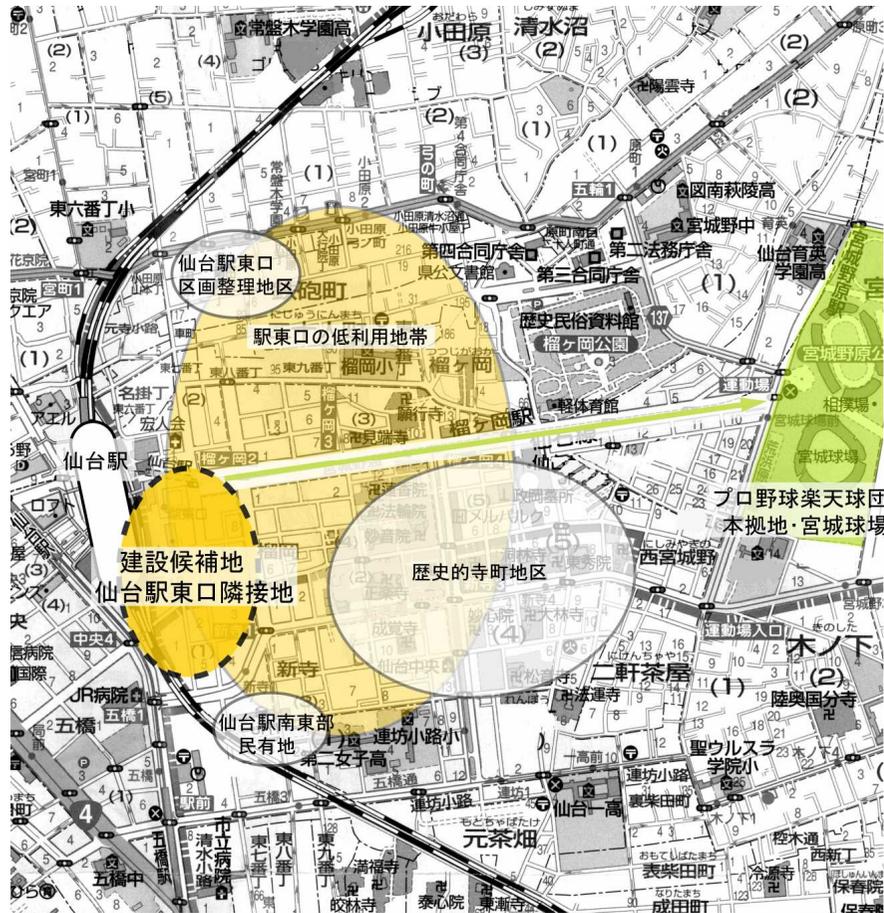
感動の体験と広がりによる劇場マーケットの拡大

劇場文化の定着により、演劇に対する注目度と興味関心が拡大し、地元劇団（演じる側）のレベル向上と活性化にも波及し、経済効果のみならず包括的な文化レベルの底上げにつながります。

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

1. 建設候補地

劇場の建設候補地は『仙台駅東口隣接地』です。



「仙台駅東口エリアの新しい可能性」

劇場建設候補地は、仙台駅東口隣接地です。

構想開始当初「仙台駅東口隣接地」、「仙台駅東口区画整理地区」、「仙台駅南東部民有地」の3つの建設候補地がありました。これらの候補地をこの計画の内容と照らし合わせて各側面から検討した結果、最終的に『仙台駅東口隣接地』に建設候補地を絞り込みました。

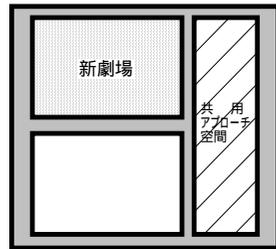
劇場を訪れる観客にとっての利便性はもちろん、東北各県をはじめ県内外から仙台を訪れる人々の目に真っ先に飛び込んでくる仙台のランドマークが劇場であるということは大きなインパクトを与えることでしょう。またプロ野球新規参入が決定した楽天ゴールデンイーグルスの本拠地である宮城球場とともに、未だ多くの低利用地が残されている仙台駅東口地区の新しい可能性を牽引する力になります。

常に活動する劇場が、多くの人びとの目に触れ、一風景として日常生活の中に存在することで、劇場に対する認知や理解が得られることを期待しています。

「東口に来れば何か楽しいことがある」人びとが常にそんな期待を抱くことの出来るまちと劇場を目指します。

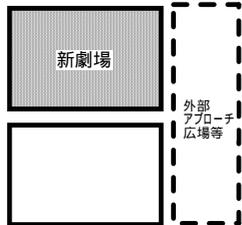
2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

2. 施設構成



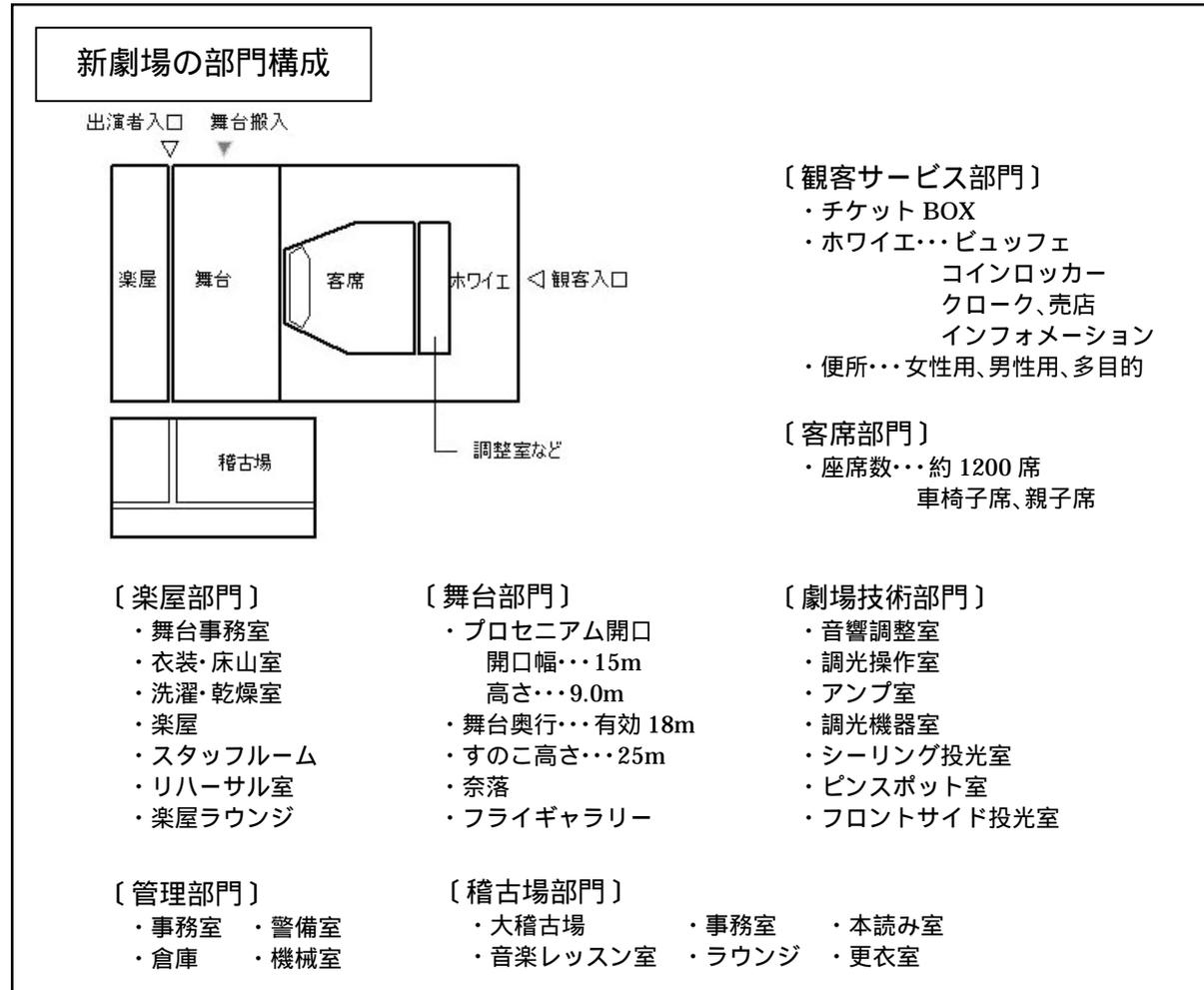
複合型

新劇場部門と共用アプローチ空間等の機能補完部門の一体化により、機能が向上するものの、共有部分の発生のため建設費が上昇。共益費など運営コストも増大。



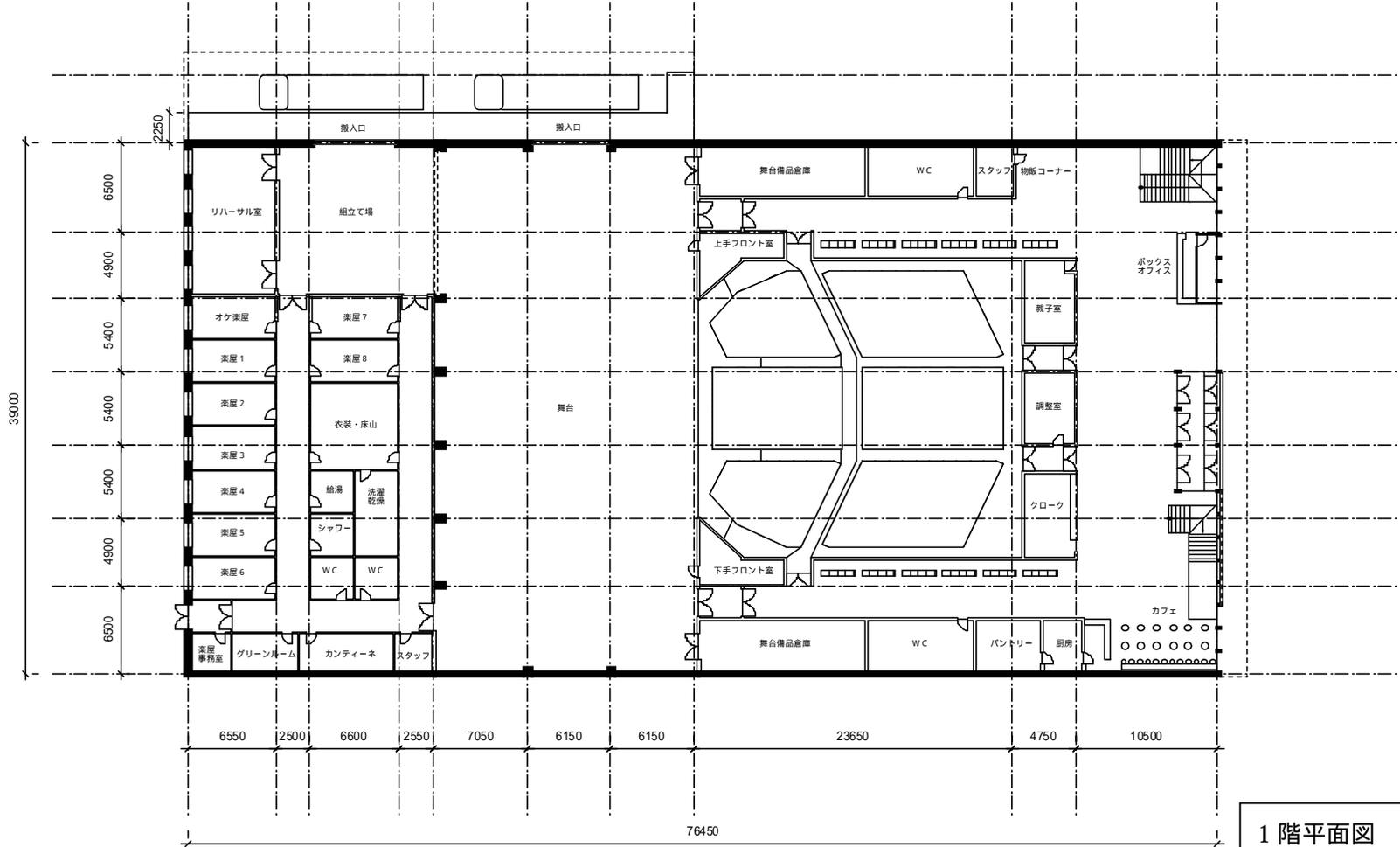
単独型

必要最低限の面積とし、コスト負担を最小化することが可能。隣接施設とは独立しつつ、一体感を出す工夫が必要。

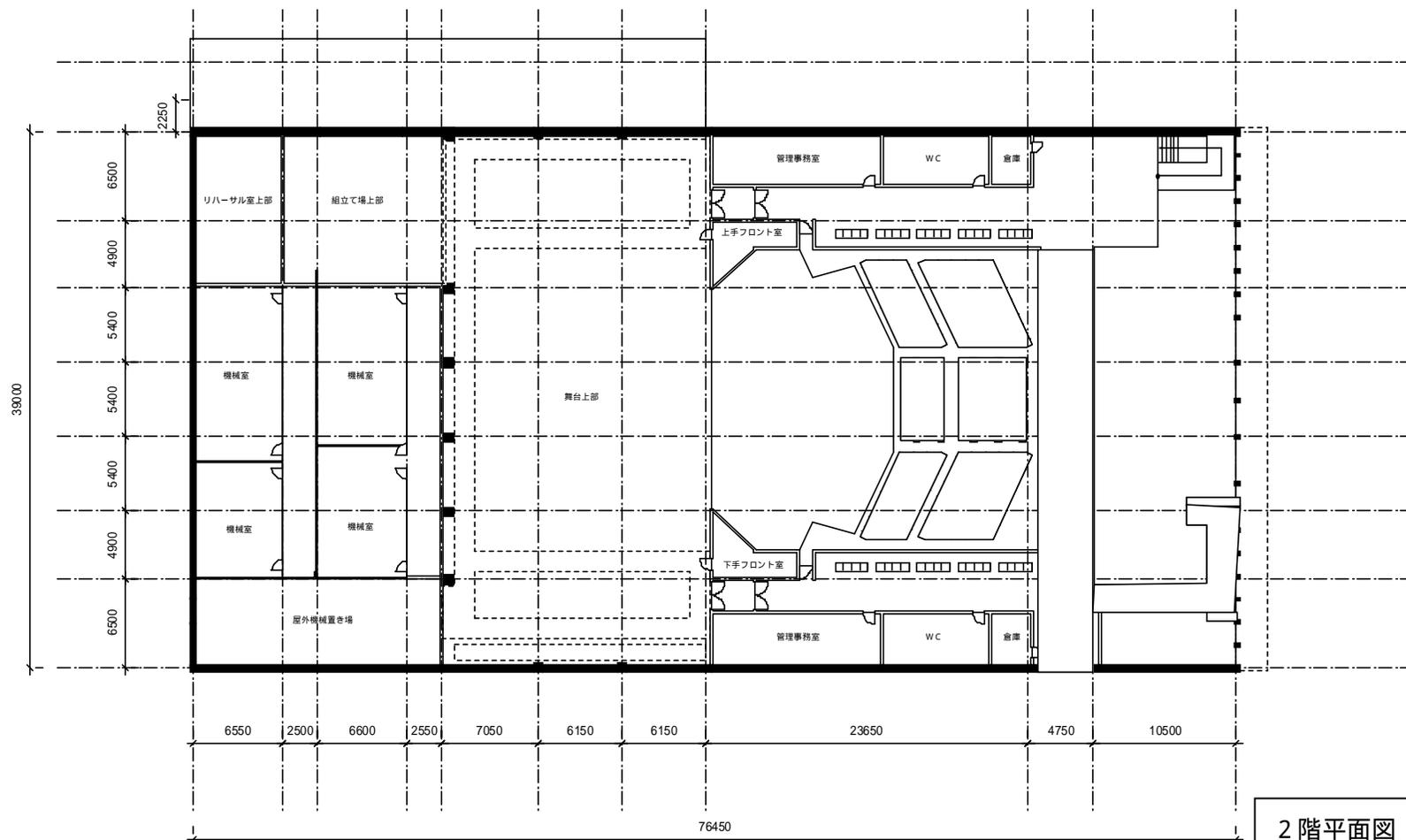


2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

3. モデルプラン

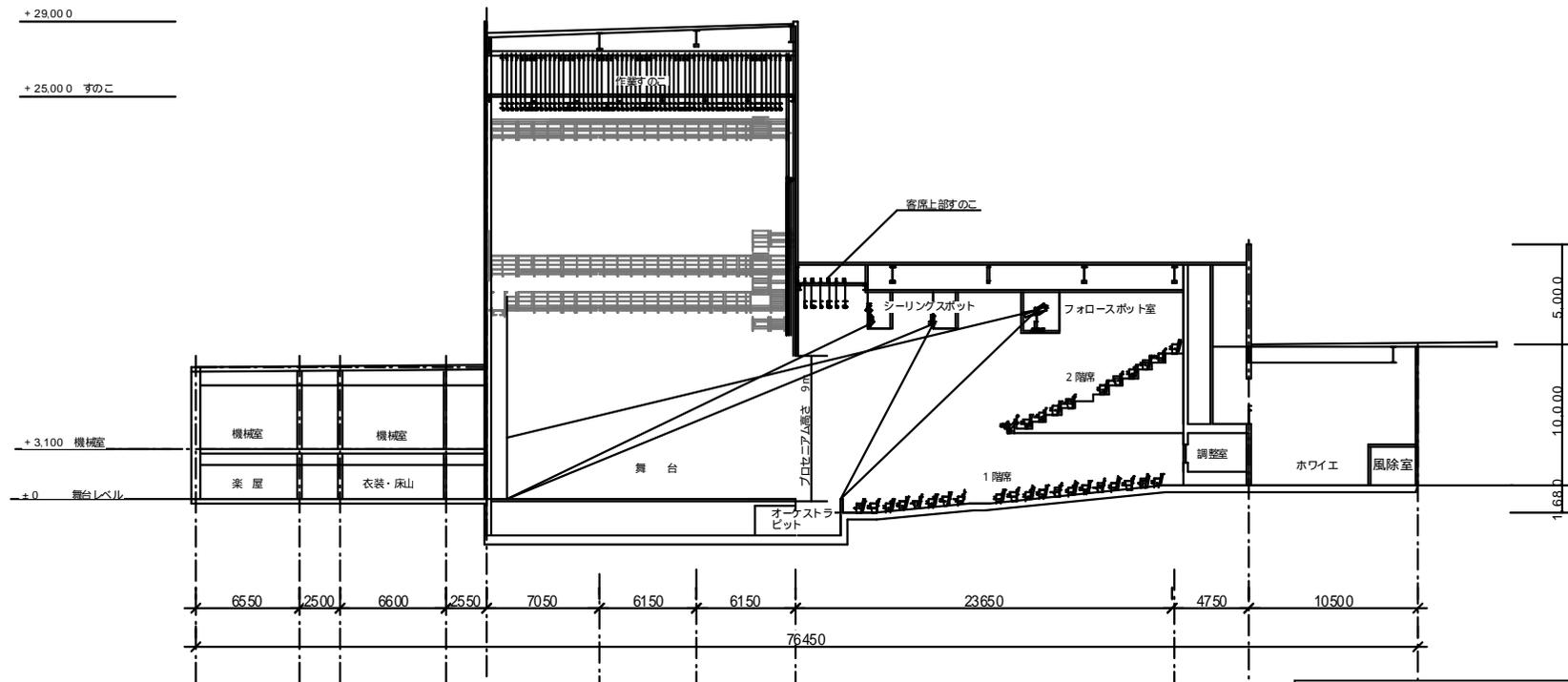


2 . 新しい劇場の創造 ~ ローコスト劇場の建設と運営 ~



2階平面図 1 : 400

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～



断面図 1 : 400

[新劇場 諸元]			
延床面積 : 1階	約 2,960 m ²	客席数 : 1階席	約 800 席
2階	約 1,310 m ²	2階席	約 400 席
計	約 4,270 m ²	計	約 1,200 席
最高高さ :	約 30m	舞台開口寸法	幅 15m 高さ 9m
		舞台奥行	19.4m
		すのこ高	25m
		舞台全幅	39m

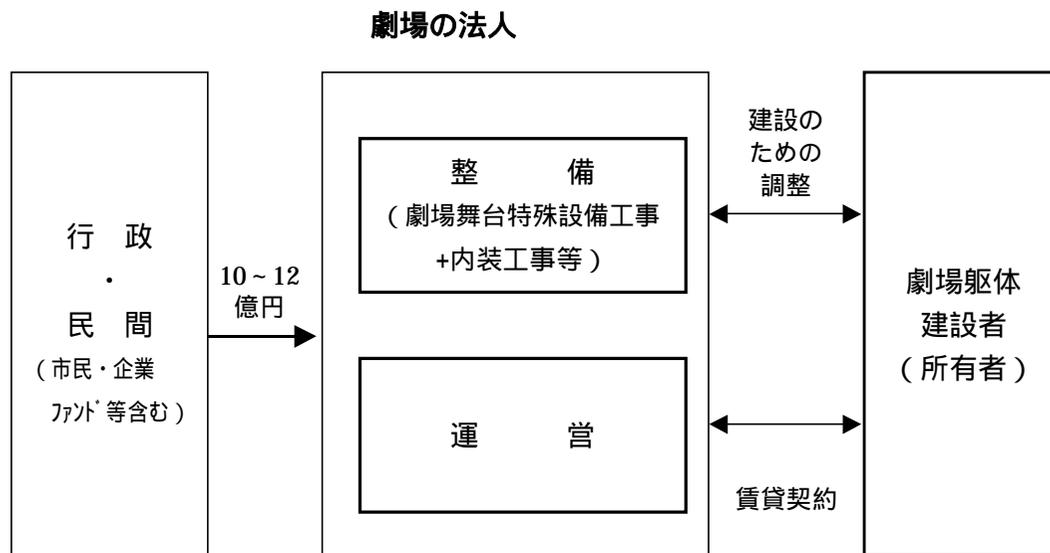
2 . 新しい劇場の創造 ~ ローコスト劇場の建設と運営 ~

(イメージパース)

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

4. ローコスト劇場建設事業スキーム

- ・劇場の法人は劇場躯体建設者（所有者）と劇場の建設に関わる調整を行う。
- ・劇場の建設に際して、舞台特殊設備工事・内装工事等は劇場の法人側で行う。



劇場施設建設事業費試算

劇場部延床面積	4,000	m ²
アカデミー部	1,000	m ²
建築延床面積計	5,000	m ²
(m ² 単価)	300	千円/m ² で試算
一般建築工事費		
30万円 × 5000m ²	1,500,000	千円
共通仮設工事	82,500	千円
建築工事	750,000	千円
設備工事	450,000	千円
外構工事	37,500	千円
諸経費	180,000	千円
舞台機構等工事費	450,000	千円
舞台機構工事	220,000	千円
照明設備工事	170,000	千円
音響設備工事	60,000	千円
その他	150,000	千円
備品費等	150,000	千円
施設建設事業費合計	2,100,000	千円

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

劇場建設費に係る参考資料

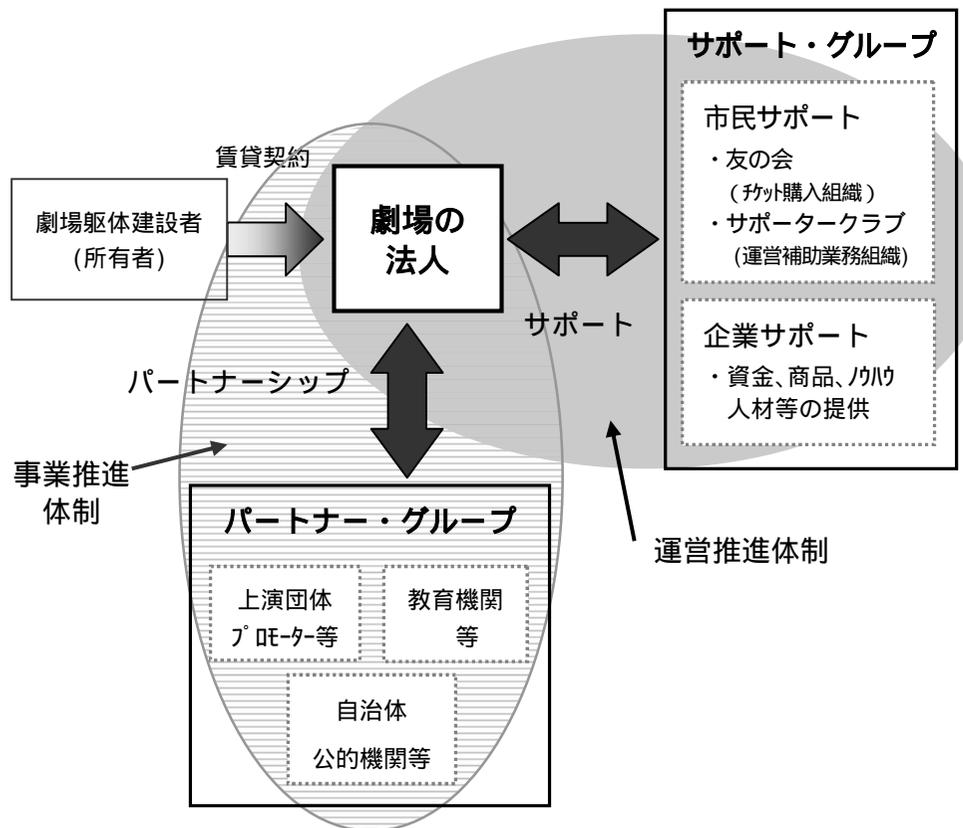
全国の公共ホール等の施設概要と建設費の事例

施設名	能登演劇堂	熊谷文化創造館	名取市文化会館	大社文化プレイス	鴻巣市文化センター	吉見町民会館
所在地	石川県中島町	埼玉県熊谷市	宮城県名取市	島根県大社町	埼玉県鴻巣市	埼玉県吉見町
開館年	1995年	1997年	1997年	1999年	2000年	2005年
客席数(席)	667	大/1004 小/移動 250	大/1350 中/450 小/移動 200	中/609 小/260	大/1292 小/移動 306	602
延床面積(m ²)	5,791	9,291	13,653	5,847	7,950	4,681
建設費(千円)	1,611,978	3,766,710	6,805,738	2,331,880	4,168,500	2,009,648
m ² 単価(千円/m ²)	278	405	498	398	524	429
舞台特殊設備(千円)	1,088,022	888,890	974,000	426,000	611,100	330,435
建設期間(年/月)		1995/11～1997/9	1995/4～1997/3	1997/9～1999/7	1998/9～2000/7	～2005/1

新建築社刊「新建築」各掲載号、(社)劇場演出空間技術協会データシートのデータをもとに作成

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

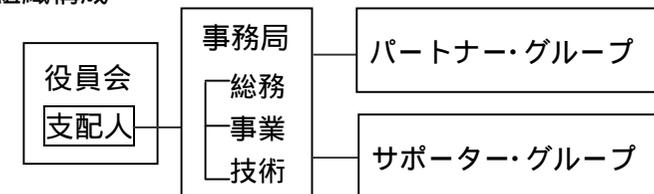
5. 事業構造・運営組織



運営組織

- ・行政と民間からの出資を主とする行政から独立した組織
- ・事務局は少数精鋭のプロフェッショナル集団
- ・インターン生、サポーターとの協働など、常に開かれた組織
- ・長期ビジョンを持ち、スキルアップを目指す成長する組織
- ・民間以上の経営感覚でシアターの運営と事業を展開

組織構成



- ・コアとなる事務局は、総務、事業、技術の3セクションとするがスタッフは専門を超えて全ての業務を分担する。

業務内容

- ・芸術文化事業の実施
 - 目的別の分類・・・鑑賞、普及・育成、交流、施設提供
 - 実施方法の分類・・・主催、提携、共催、貸館
- ・シアターの維持管理

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

6. 事業体制・運営体制

パートナーシップ と サポート

《 サポーターグループ 》

市民サポート

友の会

チケット購入を主な目的とする会員組織。
鑑賞機会を増やすことにより、ファン層を拡げる。

サポーター倶楽部

鑑賞から参加へ、より深いかかわりを実現する組織。
日常的な情報発信、公演時の観客サービスなど、
施設の運営を様々な角度からサポートする。

企業サポート

資金提供

企業メセナ活動として、事業費又は運営費の支援を行う。
新国立劇場 - シーズン・特別支援企業グループ
Bunkamura - オフィシャルサプライヤー

企業協力

企業がビジネスとしている分野での製品、サービス、
ノウハウ等の提供。

人材派遣

若手社員をスタッフとして派遣し、業務補助を行う。

《 パートナーグループ 》

提携公演・共催公演の推進

支配人を中心とする運営組織スタッフをコアとして、
上演団体・プロモーターとの協働により、事業を行う。

ショービジネスで「ひとづくり」

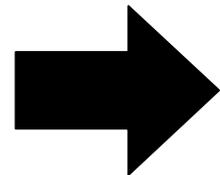
長期的ビジョンに基づいた、人材養成の視点から
教育機関との協働により、将来プロを目指す
インターンシップ研修生を積極的に受け入れる。

公的機関との連携

文化庁、地域創造などの公的機関との協働により
低廉なコストで良質な作品の創造や、誘致を実現する。

企業メセナの未来形

企業サポートから、企業の文化事業としての協働へと
発展させ、企業の文化活動を実践する場として活用する。



支援から協働へ
双方向性の
メリット作り

2 . 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

7 . 新しい劇場で必要とされる運営の考え方

地域住民がミュージカルをはじめとする優れた舞台芸術に日常的に接することの出来る、「常に活動する劇場」を成立させるためには従来型の公共ホールの運営システムから脱却し、規則等制定等においても新しい運営システムの導入が必要だと考えられます。

< 既存の劇場・ホール運営の問題 >

硬直した自主公演システム

買い取り型の公演、短期の乗り込み公演のため、公演団体のインセンティブが作れない。

短期貸館が中心となり劇場使用日が虫食い状態となる

優良公演の優先システムがない。
結果として、年間稼働率が下がる。

劇場および作品の社会的発信力を活用していない。

劇場・公演が持つ吸引力、発信力を活用しての、企業イメージを文化的なイメージへと結びつける思想の不在。

< 新しい劇場の運営システムの導入 >

長期公演可能団体との提携、フランチャイズ契約

一ヶ月以上の長期公演可能団体との共催事業など。
一年以上前に劇場日程の確保(演目・期間の決定)。

中・長期公演プロジェクトの優先予約または提携

劇場オフィシャルサプライヤー及び公演プロジェクト協賛のシステム化

劇場及び公演の発信性を生かしたスポンサー制度の新展開。
公演団体の協力による各種のスポンサー向けメニューの開発。

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

企業の資金サポートに係る参考資料
劇場等のシーズン契約スポンサーの事例

施設名 団体名	新国立劇場	Bunkamura	アートスフィア	東京フィルハーモニー交響楽団	札幌交響楽団
名称	シーズン特別支援企業グループ ¹⁾	オフィシャルサプライヤー	東京オピニオンズ	オフィシャルサプライヤー	オフィシャルスポンサー
スポンサー 企業名	(2003/2004 シーズン) コナミ株式会社 株式会社東京放送 トヨタ自動車株式会社 日本マクドナルド株式会社 ぴあ株式会社 富士電機株式会社 ローム株式会社	(2004 年) 鹿島建設 日立 東京急行 東急百貨店 (過去参加企業) 第一生命保険 日本電気 日本電信電話 野村證券	鹿島 関電工 サンゲツ 新日軽 大成建設 東京コカ・コーラボトリング 日本航空 阪急電鉄 日立製作所 三菱商事	SONY 日本サムスン 小野グループ 竹中工務店 ベネッセ	王子製紙株式会社 日本製紙 ホクレン ほくでん 北海道教職員厚生会 北海道新聞社 (オフィシャルサプライヤー) JAL ANA

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

企業/市民の資金サポートに係る参考資料
 公募等による賛助会員制度等の事例（公設施設）

施設名	博多座	世田谷パブリックシアター	水戸芸術館	びわ湖ホール	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
運営主体		(財)世田谷区コミュニティ振興財団	(財)水戸市芸術振興財団	財団法人 びわ湖ホール	(財)静岡県文化財団
名称	博多座会	SePT 倶楽部	維持会員	友の会(特別会員)	友の会(法人会員)
金額	入会金 5 万円/永年 (退会時返却・会費無)	特別会員(含法人)1口 5 万円/年 賛助会員 1口 1 万円/年	1口 5 万円/年	1口 10 万円/年	(法人特別会員) 1口 20 万円 (法人一般会員) 1口 10 万円
内容等	優先予約 会員誌送付 チケットの無料送付		会報等の送付 鑑賞会等への招待 専属団体公演の優先予約 レストラン等での割引 (一般会員同)	情報誌への企業名等掲示 自主公演への招待 チケット優先予約 情報提供、その他	情報誌への企業名等掲示 指定の公演への招待 指定のイベント等の チケット従業員数配布
会員数等	会員数約 2 万 7000 人	平成 14 年度/特別会員 59 社(名) 賛助会員 44 名		平成 14 年度 61 口	法人特別会員 6 社 法人一般会員 2 社

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

企業/市民の資金サポートに係る参考資料
 公募等による賛助会員制度等の事例（民間施設）

施設名	紀尾井ホール	第一生命ホール	こまばアゴラ劇場
運営主体	(財)新日鐵文化財団	(事業運営)NPO トリトン・アーツ・ネットワーク	有限会社 アゴラ企画
名称	ホールサポートシステム	(トリトン・アーツ・ネットワーク)法人会員	劇場支援会員
金額	(法人会員) みやび 1口 100万円 ひびき 1口 50万円 みどり 1口 20万円 (個人会員) あおい 1口 1万円	エステルハーシ・サークル 50万円/年 ラスモフスキー・サークル 20万円/年	法人会員 1口 5万円 グループ会員 1口 3万円 特別賛助会員 1口 2万円 会員 1口 1万円
内容等			各会員ごとにチケット引換券 (法人会員 50枚、通常会員 7枚)

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

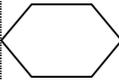
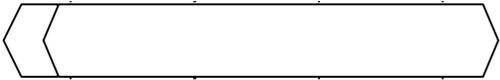
8. 年間運営イメージ

東北唯一のロングラン公演可能な劇場

年1回のロングラン公演の他に 1週間から1ヶ月単位でのミュージカル系公演を毎月上演

ロングラン公演の間の空き日を利用してストレートプレイ・ダンス・ポップスコンサート等を誘致

市民ワークショップは恒常的に開催し、仙台E-ブロード・ウェイで上演する団体の協力を得る

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ロングラン公演												
ストレートプレイ ダンス ポップス系コンサート												
市民ワークショップ

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

9. 劇場使用料金について

劇場使用料金を設定するにあたり、近隣既存施設の劇場使用料金を試算しました。

ここで劇場使用料金とは、施設使用量、設備使用料、その他、利用者が劇場を使用した場合に支払う金額の合計とします。

(表1)近隣既存施設の劇場使用料金の事例

		宮城県民会館		仙台市民会館		イズミティ21	
使用区分		全日(9:00～21:00)		全日(9:00～21:30)		全日(9:00～22:00)	
入場料金		5000超	無料	1000超	無料	3000超	無料
劇場使用料	平日	406,000	107,000	337,000	110,100	311,400	94,400
	土			327,900	135,300		
	(土)・日・祝日	499,000	144,000	276,900	151,100	385,300	129,100
楽屋使用料	全室合計	48,400	48,400	46,800	46,800	15,300	15,300
設備料金	(劇場使用料の約1/2で試算)	200,000	50,000	160,000	55,000	150,000	47,000
冷暖房費		79,200	79,200	50,000	50,000	54,550	54,550
合計	平日	733,600	284,600	593,800	261,900	531,250	211,250
	土			584,700	287,100		
	(土)・日・祝日	826,600	321,600	533,700	302,900	605,150	245,950
座席数		1590	1590	1310	1310	1450	1450
劇場費総額 に対する 席単価/日	平日	462	179	453	200	366	146
	土			446	219		
	(土)・日・祝	520	203	407	231	417	170

(表1)より近隣の既存施設では宮城県民会館で5000円を超える入場料を徴収する場合の席単価が約520円で最も高額となっています。

今回計画する劇場が主な使用形態として想定するミュージカル等での入場料金は比較的高額であり、また駅に隣接する立地条件を考慮し、席単価500円程度と試算しています。

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

10. 劇場施設維持管理費等の検討

新規劇場の維持管理費は、劇場やそれに準ずる既存施設の事例に準じ

20,000～25,000円/m²として試算していますが、施設の内容や運営方法により変動します。

劇場年間維持管理費試算

運営管理費			
人件費			
10名分	支配人1名		
	チーフ3名		
	スタッフ6名		
	計10名		
	50,000	50,000	千円
維持管理費			
(m ² 単価)	25	20	千円で試算
5000m ² で試算	125,000	100,000	千円
合計	175,000	150,000	千円
(想定項目)	水道光熱費	旅費交通費	印刷製本費
	修繕費	通信費	修繕費
	業務委託費	事務消耗品費	雑費
	消耗品費	消耗品費	租税公課等

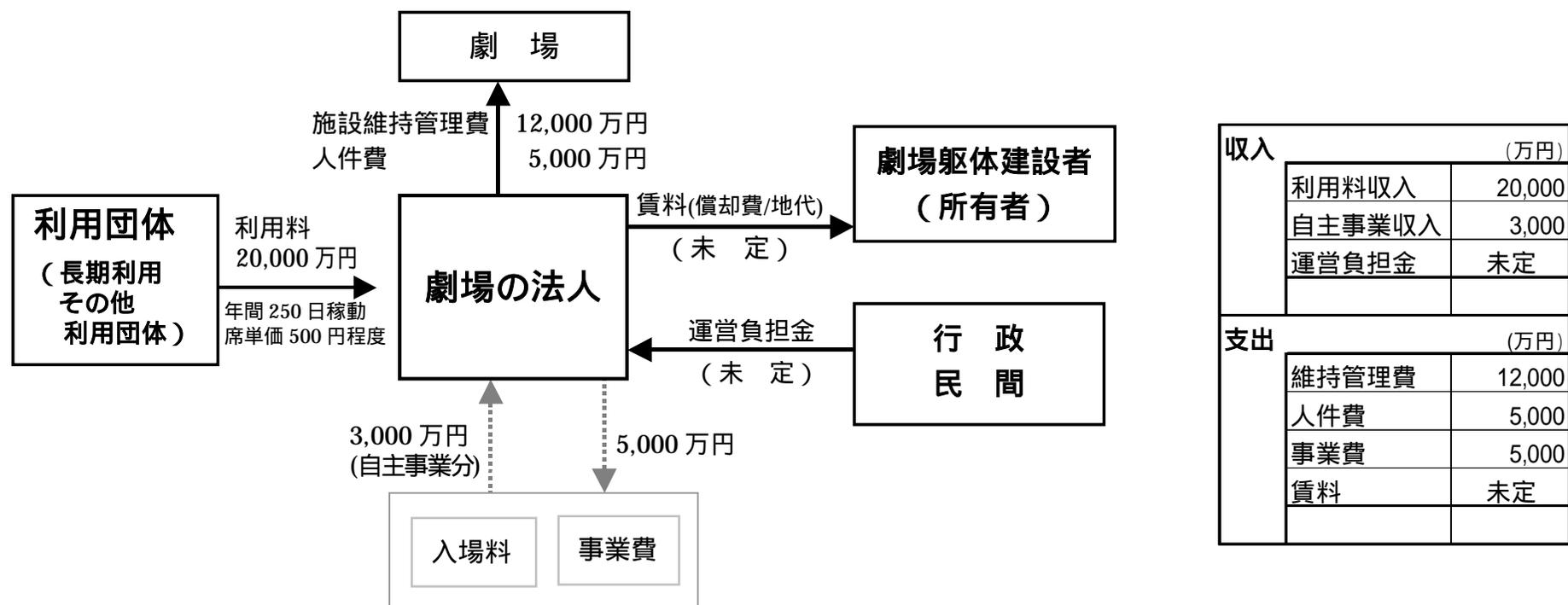
劇場年間維持管理費周辺施設事例

施設名	宮城県民会館	仙台市民会館	仙台市泉文化創造センター(イズミティ21)	仙台市青年文化センター
管理機関	(財)宮城県文化振興財団	(財)仙台ひと・まち交流財団	(財)仙台市市民文化事業団	(財)仙台市市民文化事業団
延床面積(m ²)	12,470	12,800	12,949	25,064
客席数	大 1,590	大 1,310/中 500	大 1,450/小 403	CH802/TH584/小 300
常勤職員数(人)	13	11	14	15
	(平成15年度)	(平成15年度)	(平成15年度)	(平成15年度)
維持管理費(千円)	288,057	254,960	272,129	402,772
維持管理費/m ²	23,000	20,000	21,000	16,000
稼働率	86.60%	63.1%		

2 . 新しい劇場の創造 ~ ローコスト劇場の建設と運営 ~

1 1 . 劇場運営スキーム

- ・ 行政・企業・市民等の出資による劇場の法人が所有者と賃貸契約を結び、劇場を運営する。
- ・ 劇場の法人は、従来型の第3セクターのような発想ではなく、人材の配置、収益性など、より企業の経営感覚を重視した効率的な運営を行う。
- ・ 劇場の維持管理費を官民共同で負担する。民間協賛の恒常化。



2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

12. 損益予測とキャッシュフロー(想定)

損益予測

(千円)

業務区分/費目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11～15年	16～20年	合計
収入													
施設・設備使用料収入	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	1,000,000	1,000,000	4,000,000
行政運営補助金	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	300,000	300,000	1,200,000
企業協賛金	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	250,000	250,000	1,000,000
小計	310,000	310,000	310,000	310,000	310,000	310,000	310,000	310,000	310,000	310,000	1,550,000	1,550,000	6,200,000
支出													
運営人件費	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	250,000	250,000	1,000,000
維持管理費	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	600,000	600,000	2,400,000
支払家賃	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	600,000	600,000	2,400,000
減価償却費(劇場設備分)	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	200,000	200,000	1,000,000
借入金利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000	1,650,000	1,650,000	6,800,000
維持管理部門収支 -	-40,000	-40,000	-40,000	-40,000	-40,000	-40,000	-40,000	-40,000	-40,000	-40,000	-100,000	-100,000	-600,000
事業収支													
事業収入	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	150,000	150,000	600,000
事業支出	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	250,000	250,000	1,000,000
事業部門収支 -	-20,000	-20,000	-20,000	-20,000	-20,000	-20,000	-20,000	-20,000	-20,000	-20,000	-100,000	-100,000	-400,000

表中の数字は試算用のものであくまでも想定となっております。

キャッシュフロー

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11～15年	16～20年
減価償却費	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000		
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200,000	200,000
当初基金	1,200,000											
設備投資	600,000		0	0	0	0	0	0	0	400,000		
差引キャッシュフロー	600,000	0	0	0	0	0	0	0	0	200,000	0	0
累計キャッシュフロー	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	200,000	200,000	200,000

2 . 新しい劇場の創造 ~ ローコスト劇場の建設と運営 ~

1 3 . 劇場建設スケジュール

	H16		H17			H18												H19			H19																	
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
整備計画策定	→																																					
劇場の法人 <small>発起人、定款、出資、登記</small>		→																																			
建設用地		→																																			
劇場基本・実施設計																																						
劇場整備 <small>(周辺環境整備含む)</small>																																						

契約

着工

竣工

オープン

2. 新しい劇場の創造～ローコスト劇場の建設と運営～

14. 発展のイメージ

稽古場棟の設置

- 劇場併設の養成施設
- ワークショップ・セミナー等の実施
- 公演との連携によるプログラムの充実

Act 1 ミュージカルの種まき

仙台E - ブロードウェイの建設 ミュージカルの常設劇場

- ・ロングラン公演の実現
- ・海外ミュージカルの来日公演
- ・ミュージカル情報の発信
- ・ミュージカルファンの開拓

プロの養成

- 通年での養成事業の実施
- ワークショップから作品作りへ
- スタッフも含めた総合的な養成プログラム
- 教育機関（宮城大学など）とのタイアップ

Act 2 ミュージカルの開花

創造都市の誕生

- ・コアなファンの育成
運営や事業への参加
- ・世代を超えたファンの開拓
ミュージカル鑑賞教室の実施
対象を絞った特別公演
(ファミリー、シルバー、
カップル、身障者 など)

Act 3 ミュージカルの収穫

仙台ミュージカルアカデミーの創設

- ・ファンの組織化
運営や事業への参加
観客の声が反映されるシステム作り
企画制作、チケット販売などの協働
- ・市民ファンド
市民からの資金調達と、提供者に
対する特別なサービス
(プレミア公演、パーティーへの
招待など)

< 資 料 >

資料1 興行者等に対する新しい劇場整備に対するヒアリング結果

1. 観客席に関して

- ・ミュージカルのロングラン公演を考えると800~1,200席が妥当という意見が多い。
- ・アマチュアにも使っていただけるような300席程度の劇場(ストレートプレイ)が良い。
- ・建てるのなら、クラシックやオペラなどの大型公演用に2,000席クラスのホールを建ててほしい(短期型)。
- ・ソフトと公演日数によって、キャパの考え方は違う。
- ・どのソフトをメインとして運営していくのか、劇場の用途と位置付けを明確にしておくべきである。

2. 舞台に関して

- ・舞台寸法を大きく(奥行き・奈落・間口)してほしい。
- ・吊バトンを多くしてほしい。
- ・音響設備は大事。音漏れ・反響の他にPA場所を考えて設置してほしい。
- ・重厚な舞台設備よりも逆に何も無い方が使いやすい。
- ・舞台は床への仕込みの細工などがしやすいようにベニヤ等で充分である。

3. バックヤード・楽屋に関して

- ・役者の裏導線の確保・客導線との分離が必要である。
- ・楽屋は多めにとってほしい。個室を希望とする役者も多い。
- ・スペースが許すのであれば舞台を囲む形で楽屋が配置されているといい。
- ・舞台近くに楽屋があると便利。
- ・舞台袖や通路をバックヤードとしても使うので広くしてほしい。
- ・リハーサルルームは必ず必要。

資料1 興行者等に対する新しい劇場整備に対するヒアリング結果

4 付帯設備に関して

(1) ホワイエ

- ・屋外と観客席の間に存在する空間は開幕までの待合場所の役割だけではなく、日常との気持ちの切り替わりの役目も果たしており、芝居にのめり込んでいただくのに重要な空間である。
- ・ホワイエを感動空間と表現し、日常を忘れ優しい気分にしてくれる大切な設備。
- ・物販の売上にもつながる。

(2) レストラン

- ・感動を共有した仲間たちと、劇場の雰囲気を楽しむながらゆっくり語り合える空間としてレストラン(バー)は設けたほうがよい。
- ・楽屋へのケータリングができるようにしてほしい。海外から来る俳優はケータリングが当たり前。
- ・レストランとまでいなくても簡易的なものがあつた方がいい。

(3) その他

- ・冬場を考慮し、暖かいシャワールームを設置してほしい。
- ・冷暖房の微妙なパートパートでの調整を可能にしてほしい。
- ・足の不自由な方を考慮し、エレベーターを設置してほしい。
- ・客層を広げるためにも託児所、または親子観劇室を設置してほしい。
- ・放映施設を設け、仙台から全国へ同時放映をしたい。
- ・ロングラン公演用に洗濯機や厨房の設置が必要。

資料 1 . 興行者等に対する新しい劇場整備に対するヒアリング結果

5 . 駐車場や搬入経路等に関して

- ・関係者の駐車スペースの確保は必要。
- ・多くの方が公共交通機関を利用して来場できるので、常設の一般駐車場スペースは設けなくてもいいのではないかと。
- ・搬入経路は舞台そでに 11 トントラックを横付けでき、スムーズに搬入できるような構造。
- ・装置や大道具を流し込めるような、段差なしの構築を考えていただきたい。

6 . 使用料金に関して

- ・ロングラン公演ができればチケット代も下げられる可能性が出てくる。
- ・年間 日間劇場を使用したら %OFF にするという料金設定方法案も考えられる。
- ・前売り券・当日券の値段設定の見直しも考え直してみてもどうか。
- ・水道光熱費は基本料金と別途にすることも一案。

7 . 劇場施設の予約方法に関して

- ・長期公演を優先としての予約方法は非常に嬉しい。

8 . 立地環境に関して

- ・劇場の立地はとても重要で、仙台駅に近いほど良い。
- ・郊外に劇場を建設することで、その区画の交通機関等が整備され開発の牽引役となるのではないかと。

9 . 新劇場に対する期待

- ・仙台～東京 2 時間という利点は是非活かすべき。プロデューサーをたてて、東京から有名人、仙台からアマチュアという組み合わせでお芝居をつくることも可能になり、いろいろな俳優と脚本家とのコラボレーションも可能になる。仙台発信となる新しい作品を生み出していきたい。
- ・演劇のほかにもラジオの公開録音等への活用が可能ではないかと。

資料2 「ミュージカルなどを行う劇場整備委員会」委員・ワーキンググループ名簿（順不同・敬称略）

（1）委員会

<委員長>

仙台商工会議所副会頭

笹原 壯介

<委員>

宮城県産業経済部長

遠藤 正明

同 環境生活部長

三浦 俊一

仙台市市民局長

稲葉 信義

同 企画局長

佐藤 信夫

東北電力(株) 取締役広報・地域交流部長

佐藤 裕雄

(株)七十七銀行 常務取締役

永山 勝教

(株)藤崎 常務取締役

田中 昌志

東日本旅客鉄道(株) 取締役仙台支社長

鈴木 俊一

東日本電信電話(株) 取締役宮城支店長

清水 毅志

(株)NTTドコモ東北 代表取締役社長

富岡 齋

東北放送(株) 代表取締役社長

上野 卓哉

(株)仙台放送 代表取締役社長

片桐 松樹

(株)宮城テレビ放送 代表取締役社長

高橋 久仁

(株)東日本放送 代表取締役社長

高木 健介

日本放送協会 仙台放送局長

江頭 賢治

(株)河北新報社 代表取締役副社長

一力 雅彦

(株)エフエム仙台 代表取締役社長

多田 基久

(株)プレスアート 代表取締役

今野 嵩之

(株)電通東日本 常務取締役東北営業本部長

門馬 利勝

仙台商工会議所 専務理事

津嶋 秋夫

(財)仙台観光コンベンション協会 専務理事

菊池 美春

(社)仙台青年会議所 理事長

後藤 隆博

仙台商工会議所青年部 会長

亀田 治

仙台商工会議所女性会長

飯岡 絹子

(25名)

（2）ワーキンググループ

<座長>

仙台商工会議所常務理事

間庭 洋

<委員>

宮城県産業経済部次長

堺井 啓公

同 産業経済部参事兼観光課長

桃生 昌一

同 環境生活部生活・文化課長

千葉 信

仙台市企画局次長

平井 俊之

同 市民局文化スポーツ部長

志賀野 桂一

同 文化振興課長

遠藤 俊行

東日本旅客鉄道(株)仙台支社企画部長

渡邊 英明

同 総務部企画室用地戦略グループリーダー副課長

高橋 弘一郎

(株)河北新報社事業局次長

金成 有造

(株)電通東日本東北営業本部仙台支社 営業3部長

佐藤 正文

(財)仙台観光コンベンション協会事務局長

千葉 久美

猫座 座長

横山 英子

(13名)

資料3 「ミュージカルなどを行う劇場整備委員会」活動経過

1. 委員会

(1) 第1回委員会

日時 平成16年9月17日(金) 14:00~15:00

出席者 24名

- 事項 (1) 「ミュージカルなどを行う劇場整備について」の経過説明
並びに構想説明について
(2) 設置要綱、事業計画、予算、スケジュールについて

(2) 第2回委員会

日時 平成16年12月17日(金) 13:30~15:00

出席者 32名

- 事項 (1) 「(仮称)“仙台E-ブロードウェイ”構想整備計画(案)
~長期公演可能な劇場整備へ向けて~」について
(2) 今後の進め方について

2. ワーキンググループ

(1) 第1回ワーキンググループ(第1回委員会と同時開催)

日時 平成16年9月17日(金) 14:00~15:00

出席者 12名

- 事項 (1) 「ミュージカルなどを行う劇場整備について」の経過説明
並びに構想説明について
(2) 設置要綱、事業計画、予算、スケジュールについて

資料3 「ミュージカルなどを行う劇場整備委員会」活動経過

(2) 第2回ワーキンググループ

日時 平成16年10月21日(木) 18:30~20:30

出席者 15名

- 事項 (1) 長期公演可能な劇場整備へ向けた課題についての意見交換
(2) 民放・劇団等興行者に対するヒアリングについて
(3) 今後のスケジュールについて
(4) その他

(3) 第3回ワーキンググループ

日時 平成16年11月12日(金) 18:30~20:30

出席者 14名

- 事項 (1) 経過報告について
第2回ワーキンググループ以降の取り組み
ヒアリング
経済波及効果算出
(2) 長期公演可能な劇場整備へ向けた意見交換
・事業主体、整備・運営手法等について
株式会社 博多座の事例紹介
劇場整備・運営に係る経費算出
意見交換
(3) その他

資料3 「ミュージカルなどを行う劇場整備委員会」活動経過

(3) 第4回ワーキンググループ

日時 平成16年11月24日(水) 18:30~20:30

出席者 14名

- 事項 (1) 経過報告について
第3回ワーキンググループ以降の取り組みについて
ヒアリングについて
(2) 全体計画の構成について
(3) 整備・運営費試算について
(4) 今後の取り組みについて
事業主体(株式会社)設立へ向けた取り組みについて
(5) その他

(4) 5回ワーキンググループ

日時 平成16年12月9日(木) 8:00~9:30

出席者 15名

- 事項 (1) 「(仮称)仙台E-ブロード・ウェイ構想」整備計画(案)
について
(2) 今後の取り組みについて
(3) その他

資料3 「ミュージカルなどを行う劇場整備委員会」活動経過

3. 興行者等に対するヒアリング調査

< 対象先 >

- ・ 四季株式会社
- ・ 株式会社 キョードー東北
- ・ 株式会社 わらび座
- ・ 有限会社 ウェルパフォーミングアーツマネジメント
- ・ 株式会社 河北新報社
- ・ 株式会社 エフエム仙台
- ・ 株式会社 仙台放送
- ・ 株式会社 宮城テレビ放送
- ・ 東北放送 株式会社
- ・ 株式会社 ジー・アイ・ピー
- ・ 株式会社 東日本放送
- ・ トム・プロジェクト
- ・ 仙台演劇鑑賞会
- ・ せんだい演劇工房 10-BOX

資料4 . 用語解説

用語	説明
トラス	・ 三角形を組み合わせた構造、骨組み。
プロセニウム	・ 舞台の「額縁」のこと。 ・ プロセニウム型のステージの場合は、これで舞台と客席とを区分している。
キャットウォーク	・ 舞台・客席の上部や天井裏に設置された作業用の通路のこと。
ボーダーライト	・ 舞台上部の吊物機構に吊り下げられ、舞台全体を均等に照らす樋状の器具。 ・ 通常舞台間口程度の長さで設置される。 ・ フットライト ¹ と同様な構造で3~4色に回路が分けられ、また全体を2区分か3区分に分けられている。 ・ 舞台の奥行きに応じて舞台を均等に照らすために2m程の間隔で舞台奥に向かって、第1ボーダーライト、第2ボーダーライトというように設置されている。
1 フットライト	・ 舞台間口に合わせて舞台の前端部の床に溝を設けて設置されている。 ・ 舞台全体を下から均等に照らすための照明器具。
サスペンションライト	・ 舞台上部の吊物機構に吊り下げられた照明バトン、またはボーダーライトに吊り込んで舞台上部から舞台を照らすスポットライト。または、フラッドライト ² の一般名称で、それぞれサスペンションスポットライト、サスペンションフラッドライトと呼ばれている。
2 フラッドライト	・ 全般的に均等な照明をするための器具の総称。
アクティングエリア	・ 舞台面積のうち、出演者が演技を行うスペース。
ホワイエ	・ ロビーと同義語に扱われる言葉で、劇場の入口から客席に至る広間、廊下部分を総称している。
フライギャラリー	・ 舞台の側方と後方の壁の上部に設置されている作業用通路のこと。 ・ キャットウォークとも呼ばれている。
シーリング投光室	・ 劇場の客席天井の開口部に設置され、舞台を照らすシーリングスポットライト ³ を設置しているスペース。
3 シーリングスポットライト	・ 劇場の客席天井の開口部に設置して舞台を照らすためのスポットライト群のこと。
カンティーネ	・ 出演者の休憩、食事、ミーティングの場。
ボックスオフィス	・ チケット取り扱い所。